



平成23年2月8日

原子力安全対策課

担当者 田代

内線 1880 直通 0952-25-7081

E-mail: genshiryokuanzentaisaku@pref.saga.lg.jp

玄海原子力発電所3号機の漏えい燃料集合体詳細調査の結果を
お知らせします

平成22年12月10日、九州電力から、「玄海原子力発電所3号機では、安全性に影響はないが、1次冷却材中のよう素濃度がこれまでの測定値に比べ若干上昇していることから、第13回定期検査を前倒しして実施し、燃料集合体全数の調査を行うこととした。」との報告がありました。

(平成22年12月10日お知らせ済み)

また、平成23年1月18日、九州電力から、「燃料集合体全数193体（うちウラン燃料177体、MOX燃料16体）の検査を実施した結果、ウラン燃料集合体1体に漏えいが認められた。この燃料集合体について超音波及びファイバースコープ等による詳細調査を実施する。」との報告がありました。

(平成23年1月18日お知らせ済み)

本日、詳細調査の結果等について、九州電力から以下のとおり報告がありましたのでお知らせします。

【九州電力からの報告内容】

- 漏えいが認められたウラン燃料集合体1体（燃料棒264本を束ねたもの）について、超音波及びファイバースコープ等による詳細調査を行った。その結果、
 - ・燃料棒1本に漏えいが確認された。
 - ・異物の混入、損傷及び著しい腐食などの異常は認められなかった。
 - ・MOX燃料を使用したことによる出力の異常などは認められなかった。
- このようなことから、今回の1次冷却材中のよう素濃度上昇は、燃料棒に偶発的に発生（※）したピンホール（目に見えないほどの小さい穴）からの微少な漏えいが原因と推定される。
- 漏えいが確認された燃料集合体は再使用しない。
- なお、本事象による原子力発電所の安全や環境への影響はなかった。

（※）「偶発的に発生」

適切な管理の下、製造し使用していても、極めて低い確率で発生するような事象